

CLoCMiPレベルⅢ(アドバンス助産師)認証申請  
2022年からの申請要件改正についてのご案内

## 2022年申請要件の概要

	新規申請要件	更新申請要件
必須研修	21項目を各90分	20項目を各90分
実施例数	分娩介助、健康診査等	なし
選択研修	なし	150時間
学術集会	1回参加（学術集会の指定あり）	3回参加（学術集会の指定なし）
総合評価	B(以上)	A

# 新規申請要件の改正ポイント

- 1 2021年までの必須研修・ステップアップ研修14項目は、2022年から**必須研修21項目**になりました。

2021年まで

必須研修11項目

ステップアップ研修3項目

2022年から

必須研修21項目

以下の7項目が新たに追加

- ・臨床推論
- ・災害時対応
- ・臨床病態生理
- ・授乳支援
- ・意思決定支援（演習含む）
- ・WHC指定項目から選択(1)
- ・WHC指定項目から選択(2)

※2021年までの必須研修・ステップアップ研修は、2022年からの必須研修として振り替えできます。詳細は、AMPにてご確認ください。

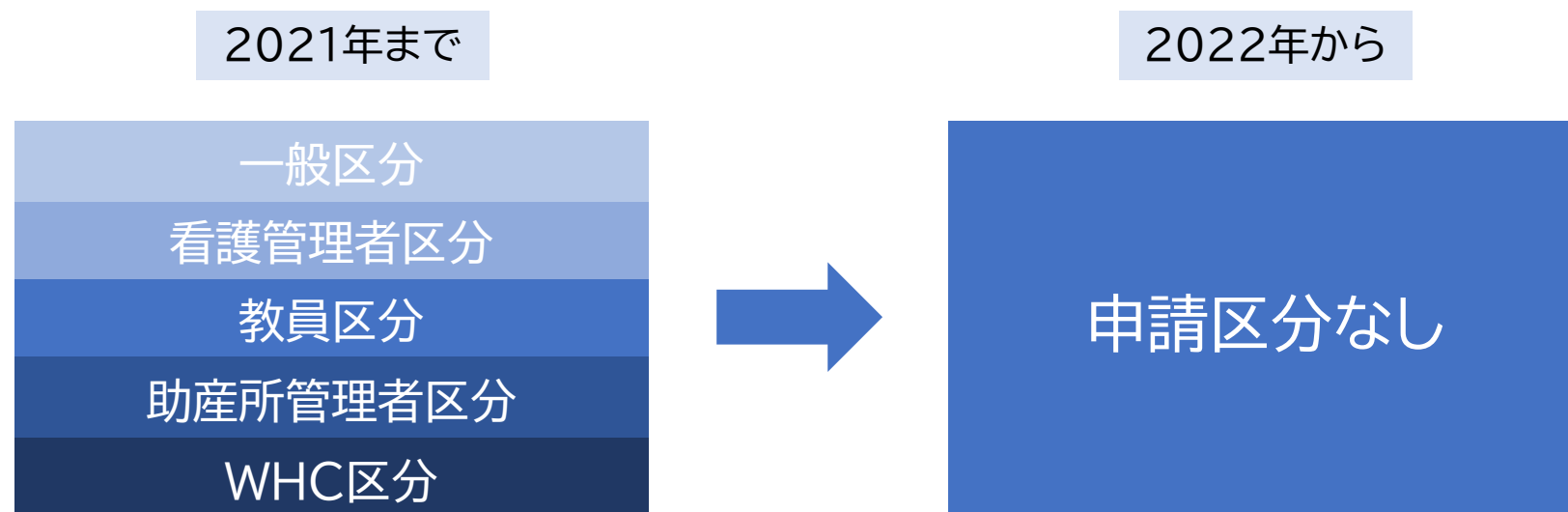
- 2 実施例数、学術集会、総合評価の要件は、2021年から変更ありません。

# 2022年新規申請要件

<p><b>必須研修</b></p>	<p>以下の21項目を各90分受講</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG)</li> <li>②妊産褥婦のフィジカルアセスメント:脳神経</li> <li>③妊産褥婦のフィジカルアセスメント:呼吸/循環</li> <li>④妊娠と糖尿病</li> <li>⑤新生児のフィジカルアセスメント</li> <li>⑥臨床薬理(妊娠と薬)</li> <li>⑦医療安全と助産記録</li> <li>⑧妊娠期の栄養</li> <li>⑨メンタルヘルス</li> <li>⑩母体の感染</li> <li>⑪緊急時の対応</li> <li>⑫助産師と倫理</li> <li>⑬後輩指導・助産師教育</li> <li>⑭新生児蘇生法(NCPR)Bコース以上</li> <li>⑮臨床推論</li> <li>⑯災害時対応</li> <li>⑰臨床病態生理</li> <li>⑱授乳支援</li> <li>⑲意思決定支援(演習含む)</li> <li>⑳WHC指定項目から選択(1)</li> <li>㉑WHC指定項目から選択(2)</li> </ul>	<p>2022年から⑮～㉑の7項目が新たに追加 その他の項目は、2021年までの必須・ステップアップ研修から振り替えが可能</p>																
<p><b>実施例数</b></p>	<table border="1"> <tr> <td>分娩介助例数</td> <td>100例以上(70例以上は経膈分娩)</td> </tr> <tr> <td>新生児の健康診査</td> <td>100例以上</td> </tr> <tr> <td>妊娠期の健康診査</td> <td>200例以上</td> </tr> <tr> <td>産褥期の健康診査</td> <td>200例以上</td> </tr> <tr> <td>プライマリーケース</td> <td>20例以上</td> </tr> <tr> <td>集団指導(小集団指導)</td> <td>実践・指導ができる</td> </tr> <tr> <td>母親学級・両親学級</td> <td>実践・指導ができる</td> </tr> <tr> <td>緊急時の対応(BLS、多量出血等)</td> <td>実践・指導ができる</td> </tr> </table>	分娩介助例数	100例以上(70例以上は経膈分娩)	新生児の健康診査	100例以上	妊娠期の健康診査	200例以上	産褥期の健康診査	200例以上	プライマリーケース	20例以上	集団指導(小集団指導)	実践・指導ができる	母親学級・両親学級	実践・指導ができる	緊急時の対応(BLS、多量出血等)	実践・指導ができる	<p>実施例数の要件は、2021年から変更なし</p>
分娩介助例数	100例以上(70例以上は経膈分娩)																	
新生児の健康診査	100例以上																	
妊娠期の健康診査	200例以上																	
産褥期の健康診査	200例以上																	
プライマリーケース	20例以上																	
集団指導(小集団指導)	実践・指導ができる																	
母親学級・両親学級	実践・指導ができる																	
緊急時の対応(BLS、多量出血等)	実践・指導ができる																	
<p><b>学術集会</b></p>	<p>以下の指定学術集会のいずれかに1回参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本助産学会</li> <li>・日本母性衛生学会</li> <li>・都道府県母性衛生学会</li> <li>・日本母性看護学会</li> <li>・日本糖尿病・妊娠学会</li> <li>・日本看護学会</li> <li>・日本助産師学会</li> <li>・日本周産期・新生児医学会</li> <li>・日本新生児看護学会</li> <li>・日本母子看護学会</li> <li>・日本母乳哺育学会</li> <li>・日本周産期メンタルヘルス学会</li> <li>・国際助産師連盟(ICM)</li> </ul>	<p>学術集会の要件は、2021年から変更なし</p>																
<p><b>総合評価</b></p>	<p>CLoCMiPレベルⅢ総合評価 B (以上)</p>	<p>総合評価の要件は、2021年から変更なし</p>																

# 更新申請要件の改正ポイント①

- 1 2021年までの5つの申請区分は、  
2022年から1つに統合され、申請区分はなくなりました。



2022年からは、勤務状況や所属施設に関わらず、  
共通の申請要件を満たすと更新申請が可能です。

## 更新申請要件の改正ポイント②

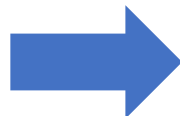
2

2021年までの必須研修・ステップアップ研修14項目は、2022年から必須研修20項目になりました。

2021年まで

必須研修11項目

ステップアップ研修3項目



2022年から

必須研修20項目

以下の6項目が新たに追加

- ・災害時対応
- ・臨床病態生理
- ・授乳支援
- ・意思決定支援（演習含む）
- ・WHC指定項目から選択(1)
- ・WHC指定項目から選択(2)

※2021年までの必須研修・ステップアップ研修は、2022年からの必須研修として振り替えできます。詳細は、AMPにてご確認ください。

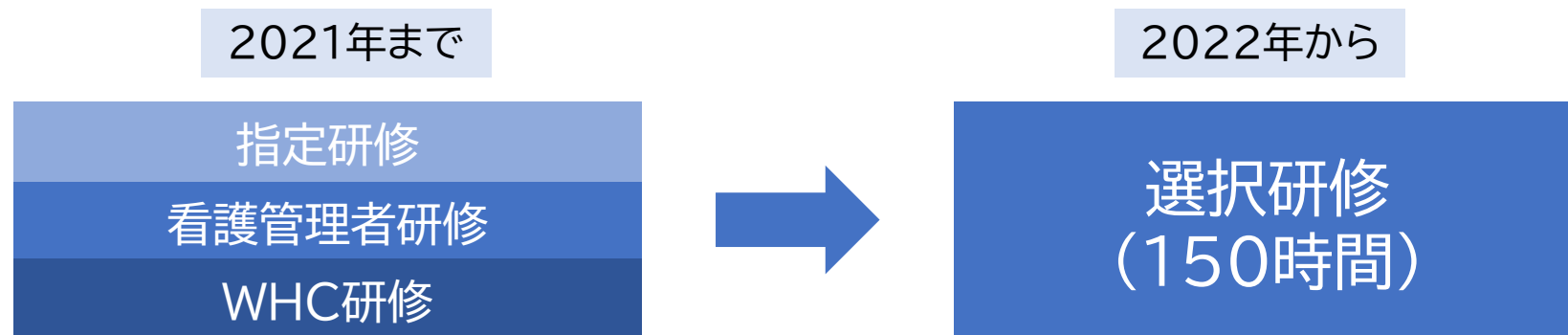
3

分娩介助等の実施例数は、更新申請では要件ではなくなりました。

新規申請時に一定の実施例数基準をクリアできており、実践能力を担保できていることから、2022年からの更新申請では、実施例数は要件から外れました。

## 更新申請要件の改正ポイント③

- 4 2022年から、より広範な研修を**選択研修**として申請に計上できるようになりました。



2021年までの更新申請要件の研修(指定研修・看護管理者研修・WHC研修等)は、  
選択研修として振り替えできます。

- 5 2022年から、**助産実践時間**を申請に計上できるようになりました。  
助産実践時間が助産実践能力の維持・向上に重要であることから、選択研修の一部として**最大80時間まで**計上可能になりました。  
助産実践時間には、助産師として施設で勤務した時間、助産・看護学教員として講義や実習をした時間、各種職能団体・学会・自治体等での活動時間などが含まれます。

# 2022年更新申請要件

2021年までの5つの申請区分は、  
2022年から1つに統合され、申請区分はなくなりました

## 必須研修

以下の20項目を各90分受講

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ①分娩期の胎児心拍数陣痛図(CTG)      | ⑫助産師と倫理         |
| ②妊産褥婦のフィジカルアセスメント:脳神経   | ⑬後輩指導・助産師教育     |
| ③妊産褥婦のフィジカルアセスメント:呼吸/循環 | ⑭臨床推論           |
| ④妊娠と糖尿病                 | ⑮災害時対応          |
| ⑤新生児のフィジカルアセスメント        | ⑯臨床病態生理         |
| ⑥臨床薬理(妊娠と薬)             | ⑰授乳支援           |
| ⑦医療安全と助産記録              | ⑱意思決定支援(演習含む)   |
| ⑧妊娠期の栄養                 | ⑲WHC指定項目から選択(1) |
| ⑨メンタルヘルス                | ⑳WHC指定項目から選択(2) |
| ⑩母体の感染                  |                 |
| ⑪緊急時の対応                 |                 |

2022年から⑮～⑳の6項目  
が新たに追加  
その他の項目は、2021年までの  
必須・ステップアップ研修から  
振り替えが可能

分娩介助等の実施例数は不問

## 選択研修

選択研修を150時間受講(助産実践時間を最大80時間まで計上可)

選択研修	研修	70～150時間	合計150時間
	助産実践	0～80時間	

<選択研修の条件>

- ①研修内容が助産実践能力に関するものである
- ②研修時間が1つの項目につき60分以上である
- ③主な研修対象者が専門職である
- ④主催者が個人ではない
- ⑤受講証明書を発行していることが望ましい

※発行されない場合、受講者本人がポートフォリオを作成すれば可

条件を満たす研修はすべて選択研修として計上可能  
2021年までの指定研修・看護管理者  
研修・WHC研修等は、選択研修として  
振り替えが可能

助産実践時間を最大80時間まで計上可能

## 学術集会

学術集会に3回参加(学術集会の指定なし)

学術集会での発表回数は不問

## 総合評価

CLoCMiPレベルⅢ総合評価 A

総合評価の要件は、2021年から変更なし



申請要件の詳細は、  
アドバンス助産師プラットフォームでご確認ください。

<アドバンス助産師プラットフォーム (AMP)>  
<https://amp.josan-hyoka.org/login>